

国民体育大会
アンチ・ドーピング教育活動
準備マニュアル

2022年6月7日



アンチ・ドーピング教育活動

1. アンチ・ドーピング教育活動の目的

公益財団法人日本スポーツ協会（以下「JSPO」という。）は、開催地都道府県（以下「開催県」という。）、JSPO 加盟競技団体（以下「中央競技団体」という。）、JSPO 加盟都道府県体育・スポーツ協会（以下「都道府県体育・スポーツ協会」という。）及び会場地市町村等関係諸機関・団体と協力し、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（以降「JADA」という。）と連携のもと「日本アンチ・ドーピング規程」及び「2021Code / 教育に関する国際基準の履行に向けた戦略計画」に基づき、国民体育大会（以下「国体」という。）本戦に参加する選手、監督、選手団本部役員帯同スポーツドクター（以下「スポーツドクター」という。）、及び選手団本部役員帯同アスレティックトレーナー（以下「アスレティックトレーナー」という。）を対象としたアンチ・ドーピングに関する教育を通じて、スポーツの価値を守り、未来に向けスポーツが発展することを旨とする。

2. アンチ・ドーピング教育活動の実施

(1) 大会プログラム版

大会に関わる多くの方々に、アンチ・ドーピングについて情報発信することを目的として、大会プログラム版データを JSPO・開催県実行委員会より各実行委員会へ提供する。

(2) アウトリーチプログラム

アウトリーチプログラムは、例年本大会では総合開会式会場にてブースを展開し、アンチ・ドーピングについての情報発信を行う。選手、監督、スポーツドクター及びアスレティックトレーナー等がアンチ・ドーピング活動を通してスポーツの価値に対し気づきを得ることを目的とする。展開場所および日程については、JSPO が決定する。

アウトリーチプログラムにおける具体的な活動の例として、「Real Champion クイズ」がある。

参加者がアンチ・ドーピングクイズに答え、アンチ・ドーピングの知識を身につけ、スポーツの価値に対する気づきを得る。

アウトリーチプログラムの運営は、JSPO が行う。会場によっては、JADA 及び公益財団法人日本スポーツ仲裁機構（JSAA）等と連携して運営を行う。

■ 実行委員会の役割

アウトリーチプログラムの実施が決定した会場地は以下の準備を行う。なお、係る経費（会場借損費、備品リース代）は、JSPO が負担する。

設営場所の確保

➤ ブース設営場所

競技会場における大会参加競技者の動線上または滞留場所にブース場所の確保。

➤ ブースの大きさ

【横 6m × 高さ 3m × 奥行き 4m 程度】の場所を使用。

① 備品手配

- テント（屋外の場合）【横 3 間<約 6m>× 奥行き 2 間<約 3m>程度】× 1～2 梁
- 長机（4 台程度）
- パイプ椅子（15 脚程度）

② 荷物受取

アウトリーチにおいて使用する物品（配布資料、ノベルティ、ブース装飾品）は実行委員会の指定した日時、住所へ発送される。実行委員会は到着した荷物の受取り、一時保管を行う。

※ブースのスペースの大きさや大会参加者数により、発送荷物量は異なる。

③ 大会要項、トーナメント表、ブース場所平面図

必要に応じ、大会要項、トーナメント表、ブース場所平面図等の情報をメールまたは FAX にて JADA へ送付する。

④ ID の発行

アウトリーチ運営者用に ID を発行する（運営者・視察者 10 名前後）。

⑤ その他情報発信に関する協力

DVD 上映や、横断幕の掲示など、アンチ・ドーピングやスポーツの価値に関する情報提供を行う場合は、積極的に協力をすること。

(3)アンチ・ドーピング活動の認知度向上

国体におけるアンチ・ドーピング活動の認知度向上を目的として、開催県実行委員会と連携し、JADA の P キャンペーンロゴと開催県が作成する大会に関するマスコット（キャラクター）とのコラボレーションデザインを作成することができる。

(4) その他

国体出場選手や監督、スポーツドクター及びアスレティックトレーナー等がアンチ・ドーピングについて理解した上で大会に臨めるよう、都道府県体育・スポーツ協会へ提供する資料などを活用する。

➤ ドーピング検査・TUE 申請に係る情報提供

国体におけるドーピング検査や TUE 申請に関する文書

アウトリーチプログラムの実施が決定した際には、詳細について JSPO 担当者から随時連絡をさせていただきます。不明点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。